

善利組普請

伝統を受け継ぎ、歴史を育むまち

普請とは、社会基盤を地域住民の協働で作り維持していくことである。本提案では、彦根城下町である芹橋地区が抱える歴史的遺産を継承し維持・発展させるために、「新辻の導入」と「かるむ広場」の新設によって歴史的な文脈と文化的財産を未来へ継続し、少子高齢化、脱車社会、防災へ対応した新しいコミュニティ「かるむまち」を地域住民と地域社会が一体となって構築する。未来に向けた善利組普請によって、新たな歴史を育む。



かるむまち：「かるむ」とは、4人で遊ぶボードゲームであるが、現在は彦根を中心とする地域にしか残っていない。老若男女が顔を付き合わせて遊ぶ姿に、芹橋地区のまちづくりの姿を重ね、世代を超えた交流を目指すまち「かるむまち」の実現を目指す。

◆タテ軸（街並軸）の整備：歴史的街並の再生

芹橋地区を南北に走るタテ軸（街並軸）の整備においては、伝統的な道路の性格を残すため道路の拡幅は一切行わない（三項道路指定）。足軽組屋敷を保存・整備するとともに、街並みの再生を行なう。再生地区は足軽組屋敷の構成を踏襲し、比較的短期で滞在する人をターゲットとして、日本の伝統的な足軽組屋敷を実際に体験できる施設とする。

◆ヨコ軸（生活軸）の整備：新辻の導入

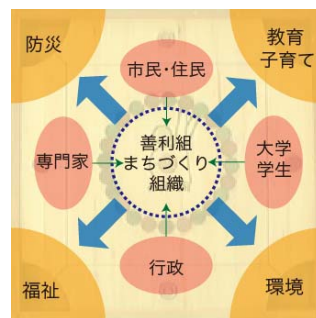
江戸期の善利組地区への訪問者は、ヨコ軸（生活軸）から入り、目的の家の近くでタテ軸（街並軸）へと曲がっていった。このヨコ方向の軸を、現代的な生活軸へ新しく整備したものが新辻である。この新辻の導入は車社会を促進させるものではなく、カーシェアリング、シェア駐車場、新辻の時間帯利用を活用することで、現実的な脱車社会の実現を模索するものである。この新辻の導入により、伝統的道路の三項道路指定が得やすくなる。また、新辻は芹川に整備する水辺を利用した芹川けやきロードと共鳴し、豊かな生活空間を創出する。

◆面的整備：善利組スクエア・かるむ広場の新設

新辻（ヨコ軸）と街並軸（タテ軸）の交差点に生まれる面を、それぞれの場所の性格に応じて広場空間として整備する。善利組スクエアは、観光の入り口であり観光客と住民や学生との交流の場として利用する。かるむ広場は、老若男女が行き交う芹橋地区の生活者のためのコミュニティ再生拠点となる。



新辻と街並軸の交差点にかるむ広場が生まれる



4つの主体の協働による4つの目標の実現